認知症の祖母と共に過ごした日々を振り返る「介護記」
【写真は父・父方の祖母・母、入所施設で(2000年)】
塩田吉之(しおたよしゆき)　クローバー・サービス職員

父方の祖母も認知症で施設入所

元気だった頃ももちろん覚えているが、認知症を発症し、怒られてばかりの姿の印象が強い父方の祖母。会うのは正直怖かった。どう接したらいいかまだ子供だった僕にはわからなかった…　中学、高校と成長し、高校卒業と共に実家を出て一人暮らしをすることになった時も、父方の祖母に会いに行くことはなかった。

父や母は(右写真の通り)時折会いに行っていたようだが、私が久しぶりに会ったのは、母が他界してしばらくしてから、父を連れて会いに行った時だった。認知症はかなり進んでいて、父(子供)のこともわからず、もちろん僕(孫)のこともわからない。舌で自分の手をべろべろと舐め、その手で握手を求めてくるその姿を見たとき、血のつながりはあっても正直、嫌悪感しかしなかった。ただ認知症が進行している人と初めて対峙した瞬間だったと思う。

些細なことで苛立ち、物にあたる

父方の祖母が怒られてばかりいた姿を見ていたが、一緒に暮らす祖母が見せるライラすることが増えてきた。その怒りのはけ口になっていたのが、居間に置いてあったスチール製のゴミ箱だった。昔よくあったキャラクタープリントのされたゴミ箱だ。

まずは蹴飛ばす。大きな音を立てて転がっていく。時にはそれでは済まず、足で何度も踏みつけ、元に戻せないほどに変形していました。「おまえはホンマにぃ〜!」(祖母)その様子を見ている父親も、その行動に、ゴミ箱が壊れたことに動揺を見せる。少し落ち着くと、またやってしまったと反省はするものの、何とか形を戻しては見るものの、歪な形のゴミ箱が常に居間にありました(苦笑)

たまに顔を見せる叔母達にもその行動は伝わっているようで、そのゴミ箱を発見すると、「もうそんな事せんときやー」と、注意されるが、正直その一言にも腹が立つ。(なんで僕ばっかりが悪者に?)確かにゴミ箱は僕が潰したし、それは反省しているが、『おばあさん僕がご飯食べてる時、目の前で屁〜こくんやで!』言い訳であげた言葉はそんな事、仕事も忙しく、疲れてたからかな?　些細な事での苛立ちはゴミ箱に向きました。

祖母の顔が豹変!　怒られる

キッチンと居間は隣どうし、祖母はその戸を開けたところの居間でよく寝転がっていました。一緒にいるところでご飯を食べると、イライラするので居間ではなく、キッチンで夕食(カレー)を食べていました。すると一日の報告なのか?聞いてもいないのに『稔(父)が下痢で、う〇こ失敗してなー』とカレーを食べているのに便の話をはじめ、いつものゴミ箱がなかったので、足元にあったスリッパがキッチンから居間に飛んでいきました。はい。ゴミ箱に続き、スリッパもそのはけ口になっていました。「またお前はそんなことして!ほんま癇癪もちやなぁ!」そしてスリッパはそのまんま…

ある時、祖母の些細な言動にまたもイラっとなった僕は、そのスリッパを蹴り飛ばすことなく(また祖母が怒るので)、手にとって、軽く額をピシリと叩いてしまいました。(痛くはないはずこの程度…)でも、祖母の顔は豹変(というか、真面目な顔になって)「何てことするんや!足に履くもんで叩くんやない!」バラエティ番組で、スリッパで頭を叩くあの姿、あんなお笑い程度の気持ちで叩いただけだと思っていたが、祖母にしたら、馬鹿にされた・ひどい中傷だったんでしょう。祖母にひどく怒られたのは、子供の頃、彼岸花を摘んで家に持ち帰り、「家が火事になる!」と怒られて以来だったかもしれません。今思えばスリッパ、あれは馬鹿にしすぎ、すごく反省しました。落ち込みました…

自分だけじゃなかった。ちょっと安心

月に1度の病院受診、受診後3人で買い物もよく行きました。事前に祖母に必要なものを紙に書かせて、さー出かけよう。走っている途中に「あ、あそこも寄ってくれよ」『買い物だけの予定で、方向違うのに!』また突然イラっときた。右肘で、運転手側のドアを肘打ち。ドン!ドン!『さっきはそんな事言うてへんやん!』ドン!ドン!

「今思い出したんや」ドン!ドン!「そんな事くらいで怒んなや。お前は癇癪もちやなぁ〜」ドン!ドン!　ゴミ箱・スリッパに引き続き、怒りのはけ口は車の内ドアでした。肘打ちの音、荒くなった運転は、すごく祖母に不安を与えていただろう…　今にして思えば…

怒りのはけ口、私はこれらの物でしたが、その後に参加した【介護者家族交流会】で、参加者からこんな話が…

「私は腹がたったとき、ビニールに要らん食器とか入れて、地面に叩きつけるんです」

「すっきりしますよ〜」私もその本人を叩くのは・攻撃するのは止めようと、瞬時に物に当たってましたが、その行動と同じやな。言葉には出しませんでしたが、その気持ちはすごくわかりました。『自分だけやなかったんやな〜』と心が軽くなりました。

それを聞いたと同時に思い出した記憶があります。古い家の時、壁の隙間からネズミが顔を出し、「見つかった!」と慌てて姿を消す。米袋を破ったり、お菓子の箱を齧ったり、悪さをするネズミに粘着性のネズミ捕りが置いてありました。捕まったネズミをどうするか?　祖母は意外にも残酷(私からしたら)な方法でした。黒のビニール袋に入れ、地面に叩きつける。じわじわ死んでしまうよりも【ひと思いに】というのが祖母の言い分でした。リフォーム後、ネズミの姿を見ることはなくなりましたが、自分はできないなー。と、祖母の新たな一面を見た瞬間を思い出しました。